

# 神戸女学院大学

## 人間科学部 心理・行動科学科

### 精神保健福祉士養成課程 ニュースレター

第2号

3年生の授業(ソーシャルワーク演習)において、ヤンマーシンビオシス株式会社(特例子会社)へ見学に行かせていただきました。本学科の卒業生である佐藤円佳さんが精神保健福祉士としてご活躍されています。

社長とのご挨拶、社内見学、質疑応答と細やかにご対応いただきました。企業内での精神保健福祉士の活躍について深く知ることができる貴重な機会となりました。



#### 参加した3年生の感想の一部をご紹介します



・今回の実習を通して「この会社を辞めた際にも、次の職場でも働きやすいように支援していく」という考え方に感銘を受けました。仕事の中で、コミュニケーションの取り方や考え方の癖、捉え方の癖など働きながら自己覚知ができることで、社員の方全員が自分を見つめ直すきっかけになるのだと思いました。そして、社員さんが働くことに満足し、誇りを持つ為に、その人その人の個性を生かすことが大切だと改めて学びました。

・障がいを持っている人でも、地域の就労支援事業所以外でヤンマーシンビオシス株式会社のように、オフィスで働く形もあることに感銘を受け、それぞれの人が得意分野を生かして、働くことが出来ている姿にも感動しました。一つのオフィスに、パソコンを使うお仕事だけというのではなく、郵便の管理や名刺の作成、封筒の作業と様々な働き方が同室で行われているところも、会社の良いところ・特徴だと感じました。



・私が一番印象に残ったのは、佐藤様の企業で働く精神保健福祉士の役割についてのお話でした。企業の場合、お客様はその会社の外の人にあたり、内部で働く障害者は職場の仲間の一人としてみるというのがとても印象的でした。今まで、福祉施設や病院など障害者の方がある種お客様としてみる視点でしか物事を捉えられていなかったのもとても勉強になりました。

・訪問し、1番驚いたことは障害者の人が働いていることが一切感じられなかった所です。初め見た時、別の場所に事業所があるのだと思っていました。皆さん黙々と作業されており、自立して働いている姿を見ると、もっともっと障害を持った人が自由に働ける社会になって欲しいと強く感じました。

・会社としての在り方を学びました。ヤンマーシンビオシスさんでは、障害のある方たちを一人の会社員として、一人の社会人として接していることが分かりました。当たり前ではあるかもしれませんが、「障害者だから」という考えが一切なく、社会の一員として障害のある人と共に働く姿が非常にいいなと感じました。そして、このように接することは、会社だけでなく、普段障害のある人と関わる際にも大切なことだと思いました。

ヤンマーシンビオシス株式会社のみなさまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。